

<p><b>8月16日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 9編</p>	<p>「虐げられている人に／主が砦の塔となってくださいるように」(10節)、「乏しい人は永遠に忘れられることなく、貧しい人の希望は決して失われない」(19節)。主はすべてを「正しく」裁く方(5節)。その主の「正しさ」の前にどれだけ謙虚に座り、自分の「思い上がり」(20節)を見つめることができているか。主が大切にされる人をわたしも大切にすることができるように</p>
<p><b>17日</b> <b>(月)</b></p> <p>詩編 10編</p>	<p>「神に逆らう者は自分の欲望を誇る。貪欲であり、主をたたえながら、侮っている…『わたしは揺らぐことなく、代々に幸せで／災いに遭うことはない』と心に思う」(3節、6節)。神をあなどり逆らう者は、「神をたたえながら侮る」ことができちゃう。見えない神への畏れを失う時、人は「悪魔」になれる。わたし自身、いつでも神に逆らう者になりえることを心に留めて。</p>
<p><b>18日</b> <b>(火)</b></p> <p>詩編 11編</p>	<p>「どうしてあなたたちはわたしの魂に言うのか。…『世の秩序が覆(くつがえ)っているのに、主に従う人に何ができようか』と」(1節、3節)。歪み、腐りきった社会を見る時、見えない神に従って何ができるのかと否定的な思いになる。しかし、「正しくいまし、恵みの業を愛される主」(7節)に従うことの幸いを教えてくださった主イエスのまなざしを心に思い起こして。</p>
<p><b>19日</b> <b>(水)</b></p> <p>詩編 12編</p>	<p>「人は友に向かって偽りを言い／滑らかな唇、二心をもって話します。主よ、すべて滅ぼしてください／滑らかな唇と威張って語る舌を」(3-4節)。「人から出てくるものこそ、人を汚す。人間の心から、悪い思いが出てくる」(マルコ7・20-21)と言われた主イエスの言葉を想う。「神に滅ぼされるべきもの」が、わたしの心にも根深く巣くっていることを覚えて。</p>

<p><b>20日</b> <b>(木)</b></p> <p>詩編 13編</p>	<p>「いつまで、御顔をわたしから隠しておられるのか。…わたしの神、主よ、顧みてわたしに答え／わたしの目に光を与えてください」(2節、4節)。順調な時には神を求めようとしないのに、困難に直面すると神を求め始める。そして「神さま、あなたが見えない」と叫ぶ。順調な時にも困難な時にも、私たちの目に光を与えてくださる方に聴き従う信仰をいただきたい。</p>
<p><b>21日</b> <b>(金)</b></p> <p>詩編 14章</p>	<p>「主は天から人の子らを見渡し、探される。目覚めた人、神を求める人はいないか、と」(2節)。あの最初のクリスマスの時にも、主は「目覚めた人、神を求める人」を探されたのだろう。そしてマリアが、ヨセフが、東の国の学者たちが、羊飼いたちが、主の招きに応じて立ち上がっていった。「恐れるな！」という、小さな、しかし確かな主の声を聴き取って。</p>
<p><b>22日</b> <b>(土)</b></p> <p>詩編 15編</p>	<p>「心には真実な言葉があり／舌には中傷をもたない人。友に災いをもたらず、親しい人を嘲らない人」(2-3節)、「これらのことを守る人は／とこしえに揺らぐことがないでしょう」(5節)。神と共に歩む道は、自分の心の内が問われる歩み。「揺らぐこと」の多い私たちを導き、正し、神の愛に立ち帰らせるために、主イエスは十字架の道を歩み通してくださった。</p>
<p><b>23日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 16編</p>	<p>「わたしは絶えず主に相對しています。主は右にいまし／わたしは揺らぐことはありません。わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います」(8-9節)。主がいつも私たちの右にいて、主の平安(シャローム)で支えて下さる。今日も主がわたしに必要な「分」を備えて下さり、今日一日を生きる力を備えて下さる。</p>